

平成27年度 自己評価表

愛媛県立南宇和高等学校
学校番号 (49)

教育方針	自由闊達で進取の気風を持ち、広く高い知性を求めて深く学び、豊かな未来を創造する個性あふれる生徒を育成する。	重点目標	起こせ！ イノベーション
------	---	------	--------------

領域	課	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	教務	○学習習慣の定着 ○確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学習モデル提示による家庭学習と授業の一体化 (家庭学習時間 120分以上) ・「わかる」と実感できる授業実践 (授業がよく分かる生徒 100%) 	B	<p>考查発表中の学習時間は 120分を越えるが、平常日の学習習慣の徹底が必要である。学習モデルの提示による家庭学習喚起を行った第1学年については、他の学年よりも学習時間が伸びた。</p>	<p>家庭学習時間の確保については、生徒の学習への動機付けと共に家庭と連携した取組を強化したい。また、各教科の適度な家庭学習課題の提示や家庭学習が生きる授業について検討したい。</p>
		○特色のある教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のニーズや生徒の実態に沿った教育課程の編成 (教育課程委員会 年5回以上) ・新しく開設する科目や学校設定科目の充実 (指導計画やシラバスの完成 100%) 	B	<p>全教科についてシラバスを作成し、ホームページに掲載した。また、来年度以降に開講される新科目や新学校設定科目の指導計画を各教科で作成している。</p>	<p>普通科における農業科目の履修については、その周知、効果の検証、他教科との連携などについて工夫したい。再来年度から実施の私立文系中心の類型について検討したい。</p>
生 徒 指 導	生徒	○基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・皆勤率55%以上 ・さわやかな挨拶ができる生徒 100% 	B	<p>昨年度より皆勤率は向上したが、現時点で達成できている。反面爽やかな挨拶ができる生徒の数が最近減少傾向にあると感じる。挨拶は人間関係を作る玄関である。更なる指導を行いたい。</p>	<p>目標達成のため、生徒会活動、HR活動を通して更なる啓発を行いたい。また、PTA理事会、総会などでも保護者に家庭での協力をお願いしたい。</p>
		○特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・県総体・県高文祭出場 100% ・生徒会行事満足度 90%以上 	B	<p>クラス数減少の中で、県総体出場者数は例年と変わらない人数を確保できた。また、県高文祭においても、素晴らしい発表ができた。生徒会を中心に学校行事においても、成果を上げている。</p>	<p>クラス減に伴い教員の数も減少することが考えられる。今後、指導者の数と部活動の数との関係で、部活動再編に早急に取り組まなければならない。</p>
進 路 指 導	進路	○就職指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就職相談・面接指導の充実を図り就職決定率 100% ・進路意識を高めるための外部講師講話 年2回以上 	B	<p>厳しい就職戦線だったが、12月末日現在、斡旋就職希望者決定率 100%を達成できた。また、外部講師の活用にも力を入れ、面接練習等を実施した。</p>	<p>エチケット・マナーについて共通理解の下、指導する。 より多くの教員が就職支援に関わり、きめ細かく対応する。</p>
		○進学指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課外授業の充実と学力の定着を図り進学決定率 100% ・進路意識を高めるための外部講師講話 年2回以上 	B	<p>0、7限の課外実施で、生徒の学力は伸びているが、習熟度の違いで、その伸びが少ない生徒もおり、個々の指導にも工夫をしていく必要がある。また、各学年で外部講師による講話やガイダンスを実施した。</p>	<p>学習習慣を定着させるための指導法について教科会で検討する。 「総合的な学習の時間」の活用について、更に研究を進める。</p>

教	総務	○P T A活動の活性化	・P T A活動への参加率（延べ数）50%以上 ・P T A総会開催方法の工夫	C	P T A活動参加率は目標を達成できなかったが、理事会で総会の検討を行うことができた。	P T A総会では講演会の内容を工夫して、参加者の増加が望めるようにしたい。
	図書 研修	○読書による幅広い教養と視野の育成	・読書冊数 年間6,000冊以上 ・図書館の活用促進	B	図書館の開館が常時できない状況であるが、生徒の利用状況は良いと思われる。	図書委員の活用を更に工夫していきたい。
	人権・ 同和 教育	○人権・同和教育の充実	・学校評価における「人権の大切さを学び、それが日常にいかされている。」の項目で生徒の評価3.5以上 ・つくし会への教職員の参加 全員1回以上	B	今年度の評価の平均は昨年度と同じ3.1だった。最も高い4の評価をした生徒はわずかに増えた。つくし会への参加は、延べ人数においては目標を達成したが、残り6名がまだ参加できていない。	生徒の抱える様々な課題に沿ったホームルーム活動の展開などを工夫していきたい。つくし会だけではなく、人権ふぉーらむ等、その他の多くの機会での参加も呼び掛ける。
	保健 環境	○校内環境の美化	・時間一杯清掃に取り組む生徒 100% ・ごみの分別 100%	B	ゴミの分別は守られ定着していると思う。しかし、耐震工事による場所変更もあったが、時間一杯清掃に取り組む生徒 100%を達成することはできなかった。	放送部による清掃5分前の呼び掛けを継続するとともに、清掃時間中の音楽放送を工夫し、気持ち良く取り組めるようにする。
育	教育 相談	○特別支援教育の確立 ○学校カウンセリングの充実	・特別支援教育委員会 学期2回以上 ・校内研修会（学年会含む）学期1回以上 ・個別面談 学期2回以上 ・学校生活アンケート 学期1回以上	B	特別支援教育委員会を学期2回実施するとともに、特別支援学校と連携を取りながら情報交換・研修会を実施した。個別面談は学期2回以上実施した。学校アンケートは、学期1回実施、各学年回で分析、生徒の情報交換と共通理解等を図った。	特別支援教育委員会 学期2回以上実施 校内研修会（学年会含む）学期1回以上 個別面談 学期2回以上実施 学校生活アンケート 学期1回以上実施
	農業	○基礎学力の確実な定着と実験実習の充実	・予習、復習課題の設定と実習記録簿の期限内提出 100% ・プロジェクト発表校内大会の参加 年1回以上	B	課題・実習記録簿の提出は、大部分の生徒がしっかりと取り組むことができた。プロジェクト発表の取り組みは、2年生のが不十分であった。	課題、記録等の提出は期限を守るなど、徹底させる。2学年時から、3年生の研究の補助をさせる。
全 般	事務	○教育環境の整備	・施設・設備の整備充実 ・校内安全点検の実施 月1回	B	校内安全点検を定期的にも実施するとともに随時の修繕要望にも迅速に対応した。	校内巡視等を実施し、計画的に修繕・購入を行い継続して予算要求をしていく。
	1学年	○基礎学力の向上と充実した学習への取組 ○積極的な地域理解への取組	・皆勤率70%以上 ・家庭学習2時間以上 ・地域行事への参加 のべ300人以上	C	皆勤率は2学期59.1%となり、目標を大きく下回る状況である。家庭学習は平均約140分程度の時間が確保できるようになり、基礎学力を身に付ける土壌は整ってきた。地域行事参加者は、現時点で延べ250人程度であり、達成の見通しとなっている。	中堅学年としての自覚を促し、1年次よりも更に成長していこうとする態度を育成したい。それにより学習面や部活動面、更に地域貢献にも積極性を生んでいく必要がある。
	2学年	○自己実現に向けた進路研究と進路決定	・皆勤率 60%以上 ・担任との面談 年5回以上 ・漢字テストクラス平均 80点以上	B	2学期皆勤率が、65.3%となり目標を上回るまで改善された。進路決定の時期となり、担任との面談回数も多くなっている。	今後も、皆勤率を中心に、継続指導すること。生徒が相談しやすい人間関係を作っていくことが大切である。
	3学年	○学校と家庭の連携強化による進路実現	・進路面接実施 年3回以上 ・担任との面談（三者面談含む）年5回以上 ・漢字テストクラス平均 80点以上	A	体育祭では、素晴らしいリーダーシップを発揮し校内外から高い評価を受けた。また、学校幹旋の就職内定率が100%、皆勤率が68%と、学校のリーダーとして十分な活躍をしてくれた。	今年同様、進路実現に向けて保護者や進路課との連携を密にしていくことが大切である。また日常生活態度に気を配り、どこに出しても恥ずかしくない人間づくりが必要である。

※ 評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。